

## ブドウ「ピオーネ」におけるアブシシン酸液剤の果房散布による着色向上

着色始期にアブシシン酸液剤を果房散布することで、果皮色が向上します。

## 背景・目的

- 温暖な気候の本県では、着色系ブドウにおいて着色不良が問題となっています。
- 住友化学が開発したアブシシン酸液剤（商品名：アブサップ液剤）について、本県の「ピオーネ」における着色効果を検討しました。

## 成果の内容

- アブシシン酸液剤を、着色始期に濃度1000ppm（100倍希釈）で、1果房当たり3～5mlを満遍なく散布することで、果皮色が向上します（表1、図1）。
- 果皮色以外の果実品質に差はなく、果面の汚れはほとんどありません（表1）。

表1:アブシシン酸液剤散布が「ピオーネ」の果実品質に及ぼす影響

年度	試験区	果房重 (g)	粒数	果粒重 (g)	果皮色 <sup>z</sup> (c.c.)	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	縮果 (粒/房)	脱粒 (粒/房)	裂果 (粒/房)	腐敗 (粒/房)	果面の汚れ <sup>w</sup>
2021	アブシシン酸液剤区	450.8	33.1	13.4	9.1	17.7	0.49	0.0	0.3	0.2	0.3	0.2
	無処理区	464.1	35.2	13.0	8.0	18.1	0.51	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	有意性	n.s. <sup>y</sup>	-	n.s. <sup>y</sup>	* <sup>x</sup>	n.s. <sup>y</sup>	n.s. <sup>y</sup>	-	-	-	-	-
2022	アブシシン酸液剤区	508.8	34.1	15.0	8.2	17.6	0.55	0.0	0.5	0.1	0.4	0.2
	無処理区	492.0	33.4	14.6	6.2	17.9	0.55	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1
	有意性	n.s. <sup>y</sup>	-	n.s. <sup>y</sup>	** <sup>x</sup>	n.s. <sup>y</sup>	n.s. <sup>y</sup>	-	-	-	-	-

注1) n=5~10

注2) アブシシン酸液剤の散布日は2021年は6月14日、2022年は6月17日

注3) 収穫日は2021年は7月20日、2022年は8月3日及び8月8日

z: 緑(0)~紫(12)、果実カラーチャート(農林水産省1975)

y: n.s.はt検定により有意差なし

x: Mann-Whitney U検定により、\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意差あり n.s.は有意差なし

w: 房全体を達観で0~3の4段階評価とした(0:無 1:少 2:中 3:多)

図1: 収穫果房  
(上段: 無処理区 下段: アブシシン酸液剤区)

参考: アブシシン酸液剤に関する登録内容(2022年10月26日登録)

作物名	使用目的	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アブシシン酸を含む農薬の総使用回数
ぶどう(巨峰)	着色促進	100~200倍	1果房当たり2~10ml	着色始期~着色開始2週間後	1回	果房散布	1回
ぶどう(ピオーネ)	着色促進	100~200倍	1果房当たり2~10ml	着色始期~着色開始2週間後	1回	果房散布	1回

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 県内「ピオーネ」の栽培地域において、品質向上による所得向上が期待できます。
- 普及対象地域・面積 県内の「ピオーネ」栽培農家 35.8ha

## 留意点

- アブシシン酸液剤の「ピオーネ」における登録内容は、希釈倍率が100~200倍、使用液量が1果房あたり2~10ml、使用時期が着色始期~着色開始2週間後で、果房散布です(参考)。
- 果実への散布量が基準を超えると、果粉の溶脱や果面の汚れが生じる恐れがあります。また、多量の液剤が葉に付着した場合、葉が黄化する場合があるので注意が必要です。